

聽覺障害部門

(第34号)

「豊かなことばを育てるために」

～語彙表の活用を通して～

幼 稚 部

1 はじめに

多面的な見方や抽象的な思考ができず、小学校高学年以降の教科学習が難しくなる現象を「9歳の壁」と称して、昔から聴覚障害児教育では言語習得に向けて日々の教育活動を行っている。聴覚口話法全盛期には、言語習得の基盤となる語彙を獲得するために、残存聴力を活用しながら血のにじむような努力を繰り返していたが、現在では聴覚活用を促すとともに手指メディアを併用して、円滑なコミュニケーションを早期から行うことが主流になっている。また、医療の進歩による聴覚障害の早期発見・早期教育開始と補聴器及び人工内耳の進歩により、重度の聴覚障害であっても幼少期より生活言語を中心とした基本語彙を獲得し、他者とコミュニケーションを行うことが昔に比べて比較的円滑にできるようになっている。

しかしながら一方で、依然として「9歳の壁」を超えることができない聴覚障害児が多く見られる。日常生活上の基本的な会話が比較的スムーズにできているので、大丈夫と思われてしまい、一つ一つの語彙の確認等の必要な支援が十分になされていない状態に陥ってしまう。また、手指メディアを使用して会話ができて、書記日本語の獲得が不十分であるため、助詞などの微妙な日本語などが身に付いておらず、教科指導が困難であるといった例が増えていることが懸念されている。

2 主題設定の理由

本校幼稚部及び教育相談利用の乳幼児を見ても、補聴器装用開始年齢が年々低年齢化しており、重度の聴覚障害の場合には人工内耳を選択する保護者が増えている。コミュニケーション方法も手話等の手指メディアを併用するようになり、先に述べたような懸念事項が本校でも見られるようになってきている。そこで、本校幼稚部では平成22年度より、研究課題として語彙表を活用した教育実践を行っている。本校も聴覚口話法全盛の頃には各年齢ごとの語彙チェック等を行っていたが、改めて現在の状況に合わせるために、まずは研究授業で用いる語彙から実践を始めた。授業の前に全教員で幼児が理解していることば、表出していることばを確認し、授業を行う教員がその活動で押さえないことばを明確にして授業を行った。これにより、使用することばを挙げ、押さえることばを教員間で共有できることや、いろいろなことばを意識することば掛けができることなど、いくつもの利点があった。また、研究授業だけでなく、保護者が参加する行事についても語彙表を作成することにした。保護者にも押さえることばを知ってもらうことで、学校だけでなく家庭でも行事に関することばを使ったり聞いたりする機会を増やし、様々なことばに触れ、語彙の拡充を促すことに一定の成果が見られた。

研究1年目となる平成24年度の幼稚部在籍幼児はA児1名のみであった。A児は聴覚をよく活用しており、音声言語によるコミュニケーションを中心としながら、家庭では聴覚障害者の両親と手話でコミュニケーションを行っている。そのため一見する

と音声言語による会話が成立しているように見えるA児だが、「これ」「あれ」などの指示代名詞を使って済ませる場面が多く、ことばが分からないために伝えたい内容を表現できないことが何度も見られた。新しいことばを伝えても、その場でただ模倣するだけで身に付かず、ことばの獲得に困難が見られた。語彙表を活用することで指導する側としても指導のポイントなどの情報の共有ができると考え、今回の研究主題も前回から継続して語彙表を活用したことばを育てる取組とした。

3 研究の方法

- (1) 語彙表を使って、幼児の実態を把握する。
- (2) 幼児の実態に応じた語彙表の見直しやことばを育てる教材の工夫を行う。

4 研究の実践

(1) 平成24年度の取組

ア 語彙表の見直し

聴覚口話法全盛期には各聾学校で語彙表が作成されており、本校でも過去に作成されたものが残っている。一般的な語彙表は発達段階ごとに50音順や品詞別に作成されていることが多いが、実際の教育の場では、その都度必要な語彙を抽出して活用していくことは困難である。そのため、平成23年度までに作成した本校幼稚部の語彙は、次のとおり季節や行事といった活動ごとにまとめている。

活動名	語彙数	活動名	語彙数
入学式・始業式	24	学習発表会	54
諸検査	32	買い物	56
体	47	秋・交通安全	71
遠足	58	お祭り	48
避難訓練	48	冬	29
運動会	49	クリスマス	23
動物園	61	年末年始・冬休み	53
海浜学習	79	お正月お楽しみ会	44
製作	59	節分	33
栽培	45	ひな祭り	28
音楽遊び	60	卒業	30
プール遊び	70	春	33
梅雨	18	場所	79
夏・夏休み	54	数え方	16

総計1301語であるが、重複している単語もあるため、実際の語彙数としてはこれより少ない。しかし、各活動ごとに表を作成することで、授業前と押さえの段階でそれぞれの語彙を確認するなどスムーズに活用することができた。

平成24年度も語彙表を活用するにあたり、年度当初に表の表記を次のように変更した。

(7) 「A児・B児」という表現を、「4歳児・5歳児」に変更。

各年齢での評価とともに、次年度も継続して個人内評価を行うことを目的に変更した。

(4) 「授業前・押さえ」という表現を「活動前・活動後」に変更。

教育相談利用児にも使用できるようにという意図と、押さえの時だけでなく、確実に語彙を身に付けて日常生活でも使いこなせるようになってほしいという教員の狙いもあり、表現を変更した。

実際の語彙表は次のとおりである。

主題・活動名	語彙表				場所	語彙表				場所に関する言葉	語彙表			
	4歳児		5歳児			4歳児		5歳児			4歳児		5歳児	
遠足に関する言葉	活動前	活動後	活動前	活動後	場所に関する言葉	活動前	活動後	活動前	活動後	場所に関する言葉	活動前	活動後	活動前	活動後
晴れ					教室					お店				
雨					ぼんだ組					やおや				
曇り					きりん組					さかなや				
宇和運動公園					うさぎ組					はなや				
宇和児童館					遊戯室					パンや				
交通安全					トイレ					おかしや				
横断歩道					廊下					ケーキや				
信号					そと					おもちゃや				
信号 赤					庭					でんきや				
信号 青					中庭					くすりや				
信号 黄色					運動場					ぶんぼうぐや				
車					畑					スーパーマーケット				
右左右					体育館					デパート				
弁当					プール					お寺				
水筒					手洗い場					神社				
おやつ					流し					お城				
お手拭					階段					幼稚園				
シート					玄関					保育園				
こみぶくろ					デッキ					小学校				
着替え					食堂					中学校				
かっぱ					聴能室					高校				
傘					職員室					警察署				
帽子					事務室					消防署				
おにぎり					図書室					郵便局				
のり					調理室					病院				
卵焼き					被服室					散髪屋				
ウインナー					図工室					幼稚園				
おかず					音楽室					保育園				
お菓子					通路					小学校				
あめ					渡り廊下					中学校				
ガム					足洗い場					高校				
チョコレート					門					警察署				
グミ					駐車場					消防署				
果物					校舎					郵便局				
ゼリー					駐車場					市役所				
ポテトチップス										図書館				
お茶					フジ					博物館				
すべり台					ダイキ					海				
砂場					卯之町駅					山				
ブランコ					卯之町幼稚園					川				
鉄棒					商店街					池				
池					運動公園					湖				
川					雨山公園					田んぼ				
広場					先哲記念館									
自由遊び					歴博									
					明石寺									
					宇和									
					松山									
					宇和島									
					八幡浜									
					野村									
					愛媛県									

表出 ◎
理解 ○

自らのことばとして表出があり日常生活の中で使用できている語彙を◎、表出はできなくても、周囲のことば掛け等を理解して行動できている語彙を○で評価した。

また、校外学習の内容に応じて「買い物」から「スケート」に関することばに変更したり、該当幼児の実態に合わせて、身に付けてほしい語彙を増やしたり、分類や並べ替えを行ったりして使いやすいように改良した。

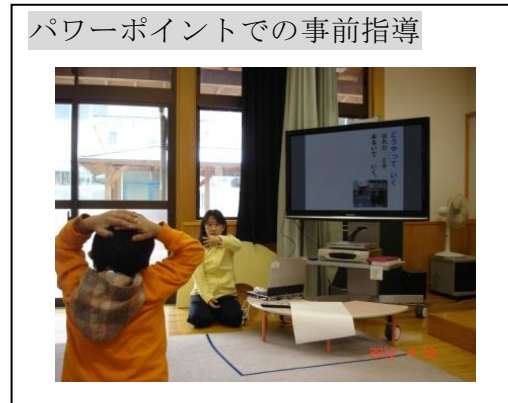
イ 教員の共通理解

部会で行事を計画する際に、その行事に関する語彙表を用いて表出語と理解語を全教員で確認した。子どもの実態把握や生活でのことば掛けのポイントなどにつ

いて共通理解を図った。

ウ 教材への活用

語彙表でチェックした幼児に身に付けさせたいことばについて、絵カードやパワーポイントを教材とし、実態把握と学習で活用した。平仮名が読めるようになってきていたA児（4歳児）には文字を添えた教材が有効であり、文字への興味から様々な物の名前への興味が増していった。カードやパワーポイントの教材は繰り返し使用することができ、確実な語彙獲得へつなげることができた。



また「? (はてな) ボックス」を使って、ことばについて理解を深める取組を行った。見えないものを触って名前を当てたり、説明を聞いて何が入っているかを考えたりした。獲得したことばを使って、自分のイメージを膨らませながら説明したり、説明を聞いて既知の知識を組み合わせながら考えたりすることができ、ことばを広げていくのにとっても有効な教材であった。実際に触って当てるものとしては、季節の果物や身の回りのもので、形や色、「ちくちく」や「つるつる」などの触覚を意識できるものを扱った。また、説明を聞いて答えるものには、最近体験した活動の中からことばを選んで扱った。A児にとって身近なものや体験したことを扱ったことで、興味を持って意欲的に活動に取り組んだ。



エ 家庭との連携

A児の家庭はデフファミリーということもあり、活動に関することばの実態把握を行うと、手話では分かるが音声言語では正しく表出することができていないことばが多かった。「お盆」や「クリスマス」、「お正月」など長期休業中の行事は、その時期に家庭でしか体験できないため、家庭で体験とことばを結び付ける必要がある。そこで、保護者にA児の実態を伝え、体験と結び付けたいことばを語彙表を基に作成したプリントで知らせるとともに、A児が体験したことを後から振り返れるように、写真も撮ってもらうようお願いした。その結果、長期休業明けにはA児が学校生活で使うことばが増えており、授業で語彙の確認を行った際にもよく覚えていた。

(2) 平成25年度の取組

ア 語彙表の改善

平成24年度の語彙表を用いた取組においては、実際の活動の中で押さえることができなかつたことばがいくつもあった。A児が4歳児から5歳児へと進級したこともあり、5歳児段階で確実に身に付けさせたい語彙を事前に確認し、教員一人一人の意識を高められるように下記のように色付けした。また、実際に幼児が誤ってことばを使用している状態を共通認識できるように記録を残したことで、自立活動の時間における発音指導等にも活用することができた。活動後しばらくしてから評価が変化したものについても矢印で示すなど、できるだけデータを残しておくように心掛けた。

主題・活動名	語彙表					5歳
	4歳		5歳		各休み後	
買い物に関する言葉	活動前	活動後	活動前	活動後		5歳
お金			◎			◎
さいふ			◎			◎
レジ		おかね	x			◎
おつり			x			◎
レシート		ふくろ	x	かみ		◎
レジ袋			○			◎
売り場		かご	x	みせ	買い物	◎
買い物かご			◎	x	はこ	◎
値段					ねびと	◎
値札			x	◎	→x	◎
店員さん			x	◎		◎
野菜			◎			◎
果物			◎			◎
お菓子			◎			◎
食料品			x	x		
惣菜		どうぐ	x	x		
文房具			x	◎		
日用品			x	x		
履物			x	くつ	○	
子供服			x	ふく	◎	
婦人服			x	◎		
紳士服		どうぐ	x	◎		
電気製品			x	x		
化粧品			x	x		
アクセサリ		たから	x	x		
エスカレーター		おりたりあがつたり	x	◎		
エレベーター			○	○	エレベーター	
屋上		おかいものやさん	x	天井	x	
スーパーマーケット			○	◎	→x	スーパーマーケット
デパート			x			
八百屋		おやおさん	○	◎		
魚屋			◎			
薬局		びょういんやさん	◎	x		
時計屋			◎			
かばん屋			◎			
洋服屋		ふくや	◎			
パン屋			◎			
ケーキ屋			◎			
花屋			◎			
おもちゃ屋		ゲームや	x			
電気屋					△	
(買うもの名前)		でんきせいひん				
(店の名前)		でんかせいひん				

イ 教材データの統一

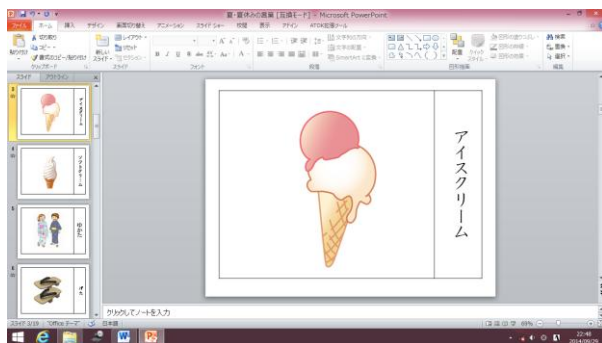
行事の事前・事後学習やことばの学習で用いる教材は、これまで各教員がICTを活用して作成していた。そのデータについては、学部の共通フォルダに保存して教員間で共有できるようにしていた。しかし、各教員が使用するソフトがバラバラであるため、イラストと文字の配置やカードの大きさなどが、統一されていなかった。

た。そこで、平成25年度も幼稚部在籍幼児はA児1名だったこともあり、平成24年度の実績で一定の成果が見られたパワーポイントを、学部で統一してICT教材のソフトとすることにした。さらに書式も統一したため、カードの大きさ等の問題も解決し、同じ教材をそれぞれの教員が使用できるようになった。学級担任と自立専科双方が同じ教材を用いて確認を行ったことで、幼児本人のことばを覚えようとする意識が高まり、ことばの定着がスムーズになるだけでなく、ワーキングメモリーも強化されたようである。さらに各行事ごとに教員がデータ作成を分担することで、負担の軽減を図ることができた。パワーポイントで教材を作成したことで「授業中にPCで一時的に見せながら学習する。」「カードとして携帯し、実際の活動中にことばの確認をする。」「プリントアウトして宿題として覚えさせる。」など、様々な活用ができた。当然のことながら、幅広い語彙概念形成を図るために、昨年度までの教材も併用しながら語彙の拡充に努めた。

PCでの指導



パワーポイント画面



スライドショーでは語彙が隠れるようにアニメーションを設定して使用

パワーポイント→プリント・カード



5 まとめと今後の課題

語彙表を用いた実態把握の方法として、研究開始当初は日常生活の中での児童の様子を教員が観察することで評価を行っていた。そのため、教員の主観により「理解」と「表出」の線引きが曖昧になっていた。平成25年度にパワーポイントを作成し、それを用いて確認することで、客観的に評価できるようになったと感じる。また、以前の評価方法では担任の判断が大きな割合を占めていたが、それも少なくなり教員間で分担して確認することができるようになった。しかし、事前・事後と同じ教材を用いているため、幼児はただ単に短期記憶しているだけではないかという疑念もある。実際に下記の「ヨーヨー」のように、実施直後は定着していたと思えたことばであっても、すぐに忘れてしまっているものがいくつもあった。

主題・活動名	語い表				おまつりに関する言葉
	4歳児		5歳児		
おまつりに関する言葉	活動前	活動後	活動前	活動後	おまつりに関する言葉
お祭り	◎		◎		(おみこしを)
夏祭り					ワッショイワ
秋祭り					すくう
ちようちん			×	?	そっと
おみこし			×	○	
ほたかぶ			○	◎→×	かぶき
牛鬼			◎		
船					
出店(でみせ)			×	○→×	
ジュース	◎				
綿菓子			◎		
ポップコーン			◎		
たこ焼き	◎		◎		
からあげ			○	◎→○	
かき氷	◎	からあげ			からげ
アイスクリーム	◎				
りんごあめ			◎		
焼きそば	◎		◎		
お好み焼き	○		○		
チョコバナナ			×	◎	
東京ケーキ			○	◎	
いか焼き			×	○	
焼き鳥		たいやき	×	○	とりやき
大学いも					
べっこうあめ					
お面	○		◎		
ヨーヨー			○	◎→×	
きんぎょすくい			◎		

そのため、事前・事後での確認方法に何らかの変化を加えるなど、指導者の工夫と新たな教材の作成等が今後の課題であると感じている。また、実際の生活場面で自分のことばとして表出できているかどうかは、最終的には担任の判断に頼る部分が多い。4歳児のときには確実に覚えたと思っていても、5歳児で確認をすると忘れてしまっていたり、繰り返し指導しても発音の間違いが改善されないことがある。季節や行事のことばは、その都度確認していく必要があるため、幼児が自分自身で語彙の確認ができるような語彙カード等を作成するといった活動も機会があれば実施してみたい。

平成26年度は幼児の在籍が0である。しかしながら、本校の教育相談を利用している聴覚障害乳幼児は毎年必ずいる。人工内耳装用児も増加傾向にあるが、人工内耳を装用しても聴覚障害があることに変わりはなく、むしろ軽・中等度難聴のように聞こえて話せてしまう分、曖昧に使用している語彙が多いように思う。今回作成した語彙表を、教育相談乳幼児の実態に応じて改良し、積極的に活用していきたい。